

平成 26 年 6 月 25 日

各位

会 社 名 オンコリスバイオファーマ株式会社
代表者名 代表取締役社長 浦田 泰生
(コード番号：4588)
問 合 せ 先 常 務 取 締 役 六反田 靖
管理担当兼経理部長
(TEL. 03-5472-1578)

OBP-301 (テロメライシン®) の用途に関する特許の 日本における特許査定のお知らせ

当社が出願しておりました腫瘍溶解ウイルスOBP-301(テロメライシン®) (※) の用途に関する特許が、日本にて平成26年6月17日付で特許査定されたことの連絡を、本日当社代理人より受けたことをお知らせいたします。

記

1. 特許査定の概要

当社は、既にテロメライシン®の物質特許を日米欧含む各国で保有していますが、このたび物質特許に加え用途特許でも日本において特許査定を受けました。今回査定を受けた特許は、放射線や既存の抗がん剤による治療で耐性を獲得した腫瘍に対してテロメライシン®を投与することで、優れた有効性が期待されるがん治療法を提供するものです。

既存治療への耐性を獲得した腫瘍は、他に治療法の選択肢が無いために、予後が非常に悪いと言われています。当社は、このような腫瘍に対してテロメライシン®が有効性を示す可能性があるという研究成果を得ています。

当社は、標準治療が無効となった肝臓癌の患者に対してテロメライシン®を投与し、その安全性と薬物動態、及び抗腫瘍効果を検討することを目的としたPhaseI/II試験を開始しました。また、現在岡山大学では、平成24年8月から食道癌患者様を対象に放射線照射後にテロメライシン®を投与する臨床研究が行われています。

当社は、今後も高い医療現場ニーズを充足するために、テロメライシン®の開発促進及び知的財産権強化を図って参ります。

2. 業績への影響

本件による本年度業績への影響はありません。

※OBP-301(テロメライシン®)は、ヒトアデノウイルス5型のE1領域にテロメラーゼプロモーター (hTERT) を組み込んだ制限増殖型の腫瘍溶解ウイルスです。テロメライシン®はテロメラーゼ活性が上昇している癌細胞の中で特異的に増殖し、癌細胞を溶解させますが、正常細胞中での増殖能力は極めて弱く、細胞毒性を示さないことが特徴です。臨床では、主に腫瘍部位への局所注入による治療を行い、テロメライシン®の持つ癌特異性を発揮することによって全身性の副作用が大幅に軽減されることが期待されております。

以上